

水野先生、          先生、          先生

拝啓 今年は記録的な猛暑で、まだまだ暑い日が続いておりますが、先生方はいかがお過ごしでしょうか。

この度は9ヶ月間、家庭教育支援コースにてお世話になり、どうもありがとうございました。娘は元気に毎日登校しています。「行ってきます!」と明るく玄関を出る娘の姿を見て、毎朝うれしく思っています。

我が家が支援をお願いした20/2年10月は娘が不登校を経て、復学し始め、5ヶ月ほど経たぬ頃でした。完全不登校になったばかりの頃、何とか解決していく、地域の教育相談、学校のカウンセリング、民間の不登校支援機関に

足を運びました。その中で一番早く解決してくれるように感じた民間のある機関に支援をお願いすることにしました。その機関はこちらから訪問してカウンセリングを受けるスタンスだったので、行き渡る娘をなだめて連れて行きました。ところが娘はカウンセラーの方に嫌なことを言われたと言い「もう二度とあんな場所には行かない。他人に頼らずに自分でなんとかする!」と外部の助けをシャットアウトしました。

その後は娘の状態は悪くなるばかり。

昼夜逆転はなかったものの、何のために生きているかわからないと零ち込み、死にたいと2階の窓から飛び降りようとしたり、包丁を持ち出したこともありました。「私なんて生まれて来たければよかったのに...」  
というようなことばかり言っていました。

その頃、水野先生の「ころはぬ 夫の家庭教育中学生編」と読み、うちも過干渉・過保護かもしれない...と思い始めていました。

しかし、まだ自分のことと客観的に見られずに、  
うちは子どもに決めさせていることが多い。そんなにも悪い方では  
ないと思っていました。

そのあと、娘の学校の学年主任に相談したところ、  
「親が変わらなければ子どもは変わらない。親が  
手や口を出しすぎている場に見える。」と指摘されました。  
小野先生と同じことを言っていることに驚くとともに、  
はまり指摘されたことにより、うちも過保護・過干渉  
だったことに気付きました。

その後、ペアレントキャンプにお願いしたいと思っ  
ては [REDACTED] 断念を繰り返しているうちに  
娘が中2になたら学校に行く自分から言い出し、  
宣言通り、中2の新学期から登校し始めました。  
このおな経緯を経て復学しましたが、中2の  
1学期はかなり不安定で欠席が10日、遅刻や早退も  
何度もあり、私が車で送ることもありました(通常は

バスと電車で1時間以上かけて通学しています。) 球技大会の練習で陰口を言われたと泣きながら帰って来た日もありました。1学期中はお弁当もおとひとり食べていたおで、味がしなないから量を減らしてほしいと訴えてきたこともありました。かたがてギリギリの状態に登校していたと思います。

2学期が始まってから、ようやく少し仲良くなった友達が全く口をきいてくれないなと落ち込み、4日間欠席しました。一度不登校になった子はまた学校に行けなくなる可能性があるかと、聞いたことがあったので、このままたとまた不登校になってしまいかもしれないかと危機感をいだき、ずと気になつたペアレンツキャンプに連絡をとることにしました。

一度、民間の機関で失敗しているので、正直言うとお金のかかる機関は怪しいのではなからうか、という不安もありました。そんな中、SNSのコミュニティでペアレンツキャンプで

支援を受け、今も学校に行けているお子さんを持つ方々とお話しができて、不安がなくなりました。怪しいかもと思っていたこと、申し訳ないです...

初めての電話相談では水野先生が1時間以上、じっくり丁寧に話を聞いてくださり、先生の誠意、信念、熱意を感じました。電話を切った直後には支援をお願いすると決めていました。支援を受けるならば夫婦が共に同じ方向を向いていることが必須のことだったので、夫の承諾が必要でした。その頃、単身赴任中の夫とはほとんど会話をしていませんでした。娘が不安定だった頃、夫は娘の様子を聞くとしんどい仕事の手につかないので、報告を一切しほしてほしいと言ったからです。復学して学校に行っていることは知らせていましたが、欠席や早退のことなどは何も伝えていませんでした。協力しない夫に対して、私は悲しいのと、怒りの気持ちでいっぱいだったので、連絡しない方が楽でした。しかし、

このままでは良くないと思ってはいました。

意を決して夫に話しをすると、意外なこじこじOKが出ました。ただ他人事のために「何でもやりたいことを試してみたら、後悔のないようにいろいろやってみた方がいいよ。」という感じでしたが…。

とにかく、承諾は得たので、すぐにペアレンツキャンプに連絡をしました。

担当の先生へのノート添削が始まると思ってもよらない箇所コメントがいくつもありました。テキストには載っていないパターンの実際のわが家の会話を添削していただけるのは本当に助かりました。無意識に言っていたNGワードや会話癖もわかりました。NGの場合は理由もしっかり書かれていたので、ずと頭に入ってきました。最初に水野先生が言われた「家庭教育支援コースは漢方のようにじわじわ効いてくるので気長にいきましょう。」

という意味がよくわかりました。アドバイスを受けた  
ことを一つ一つ修正して、また別の失敗をして  
再度修正することの繰り返しなので、時間はかか  
ります。それでも一つ一つ修正をしていくことにより、娘の  
反応や態度が日々変わって行ったので、じわじわでも  
効果を実感できました。支援中、夫がノートを  
読むことはありませんでしたが、要点を伝えて  
親の対応が違わないように心がけました。夫も  
協力してくれました。支援を受けてから娘が  
徐々に明るく、素直になっていくのがたまにしか  
会わない夫にはよくわかったようです。わが家は  
夫婦で過保護・過干渉でしたが、最近では夫も  
「失敗してそこから学べば良い」とほとんど口を  
出さずになりました。ただ間違った方向へ行き  
そうな時は修正しめということ、夫婦の意見は  
一致しています。

支援を受けてから娘の学校生活も好転し始め、気の合ふ友人が何人かできて、お弁当も友人と食べるようになりました。私も娘に対して行方することがなくなり、子育てがとても楽になりました。今までは子どもに期待しては落胆し、注意をする。そんな子育てをしていたように思います。最近では社会や人様に迷惑をかけなければ良いと思えるようになりました。良い学校に行かなくても子ども自身が望む道を見つけて、楽しく毎日を過ごせれば十分と心から思います。

当初は子どもを助けてほしいという気持ちで支援をお願いしましたが、最終的には子どもだけでなく、家族も円満になりました。ヘアレンツキャンプにお願いをして、本当に良かったと感謝の気持ちでいっぱいです。

後半担当していただいた 先生から最終日に、安心して送り出せるとおっしゃっていただき、うれしかったです。

これからも油断せず、PCMを忘れずにがんばります。

水野先生、 先生、 先生、どうもありがとうございます!!

敬具

2013年9月5日